

## 何羽は「なんば」？「なんわ」？

**数**量や順序などを問うときに、「何」を付けて、「何日・何人」などと尋ねる。

この「何」を付けた助数詞の発音がゆれている。

助数詞の読みで「何回・何曲・何歳」や、「何時・何台・何番」などは問題ないが、「階」「足」「分」「発」などは「何階、何足、何分、何発」と、助数詞を濁音や半濁音で発音するのが一般的だ。

しかし、最近は、「ナンカイ、ナンソク、ナンフン、ナンハツ」のように清音で発音する人が増えている。

以前、留学生に、「『何+助数詞』は、どう発音するのか」と尋ねられたときに、「『3』が付いたときと同じ」と答えた。

たとえば、「3本」は「サンボン」、「3分」は「サンブン」と言うように、「何本」は「ナンボン」、「何分」は「ナンブン」と教えたが、やや不安であった。しかも、留学生が「3本」を「サンボン」、「3分」を「サンブン」ということをわかっているという前提が必要であった。

さて、なぜ、清音が増えてきたのか。

地域差もあるだろうが、単純化の流れもあるのではないか。「階」や「軒」は、共通語では「3」が付いたとき以外は、1から10まで、すべて清音で（イッカイ・ニカイ・サンガイ・

ヨンカイ～、イッケン・ニケン・サンゲン・ヨンケン～）「3」が付いたときのみ、濁音である。

だから「3」+助数詞もほかの数字にあわせ、3階を「サンカイ」、3軒を「サンケン」と言う人が増えているのではないだろうか。

「何」が付くと「3」に付いたときと同じ発音になる例として、次の「杯・敗」を比べてみた。

音読みはともに「ハイ」である。共通語では、アクセントは異なるが、「何杯」は「ナンバイ」、「何敗」は「ナンバイ」となる。「1杯・1敗」はイッパイ、「2杯・2敗」はニハイと同じだが、「3杯・3敗」は、サンバイとサンパイとなる。留学生に教えた、「『3』が付いたときと同じ」は、まちがっていなかったと思われる。

ところで、「羽」「歩」は、「3」が付くと、「羽」は「サンバ」「サンワ」、「歩」は「サンポ」「サンポ」と、2つの読み方があるので、さらに大きなゆれが出ている。

たとえば、「3羽」は、1970年代に流行した『電線音頭』では「♪電線に雀が3羽(サンバ)止まってた～」だった。

しかし、若い人に聞くと、「サンワ・サンポ」「ナンワ・ナンポ」という答えが多い。

伝統的には「ナンバ」「ナンポ」だったと思われる「何羽・何歩」の発音も、時代が移るなかで、単純にする“省エネ読み”に一部変化してきていると言えそうだ。坂本 充(さかもと みつる)